

5月18日、天王寺区民センターにおいて、大阪市教職員組合第72回定期大会が開催されました。

はじめに、東部支部の畠中代議員と南部支部の横山代議員を議長に選出し、議事が進められました。

次に、主催者を代表して松岡執行委員長の挨拶、来賓を代表して大阪市会議員の森山さん、大阪教組中央執行委員長の百済さん、市労連副執行委員長の井上さんから挨拶がありました。

続いて、執行部より経過報告と24年度運動方針案ならびに当面の闘争推進案、23年度決算ならびに会計監査報告、24年度予算案について提案がありました。提案後の質疑では、以下の質問が出されました。

家原代議員（西部支部・真住中分会）

- デジタル教材やデジタル教科書を使うように管理職がプレッシャーをかけている。市教委からデジタル教材やデジタル教科書を使うよう指示が出ているのか。
- 中学校社会科の教科書採択に向けた具体的な取り組みを行うのか。

柳井代議員（東部支部・南中分会）

- 日本語指導の必要な子どもが、各校で急激に増えている。センター校以外でも加配を増やしていく必要があるのではないか。

竹島代議員（北部支部・天満夜間中分会）

- 夜間中学校のニーズは高まっているが、市教委や市会議員は現場をあまり理解していないように思う。市教委や大阪市会に向けた取り組みが必要ではないか。
- 日本語指導を希望する生徒が増えており、現場が受け入れきれなくなっている。加配も含めた取り組みをお願いしたい。



畠中代議員（左） 横山代議員（右）



議事運営委員のみなさん



松岡委員長



森山市会議員



百済委員長



井上副委員長

## 大阪市教職員組合第72回定期大会が開催される！ 執行部原案が圧倒的多数の賛成により、可決・承認！

- 夜間中学生の進路保障について、奨学金は日本の小・中学校を卒業しないと利用できない。来日して夜間中学校だけを卒業した場合でも奨学金が利用できるよう取り組んでほしい。

高野代議員（北部支部・柏里小分会）

- 4月にICTに関するアンケートが実施された。今後は、どう活用し取り組みをすすめていくのか。

南崎代議員（北部支部・東三国中分会）

- 中教審の答申が出たが、日教組の方針では「給特法の廃止」の後に「抜本の見直し」とされている。これについて市教組の見解は。
- ICTに関するアンケートでは、使い勝手の悪さや仕事が増えたという意見の他に、教育内容に関わる声もあがっている。市教組はこういう意見に対しても取り組んでいく必要があるのではないか。

乙見代議員（臨時採用教職員部）

- 2008年に夜間中学校の給食（補食）が廃止された。夜間中学校の生徒にも給食は必要である。給食再開に向けた取り組みを行ってほしい。
- 夜間中学校3校だけでは増え続ける生徒のニーズをカバーしきれない。増設・新設に向けた運動を展開してほしい。

討論には、9人が参加し、各現場の活動報告や市教組に対する要望、専門部の活動について、活発な意見が出されました。（裏面に掲載）

修正案はなく、第1号議案から第3号議案までの執行部原案の採決が行われ、圧倒的多数の賛成により原案が可決・承認されました。続いて、特別執行委員承認の提案を行い、稲田幸良さんが選出されました。そして、「中教審特別部会『審議のまとめ』に反対する特別決議案」、「大会宣言案」、「スローガン案」が提案され、参加者の拍手をもって採択されました。最後に田辺副執行委員長の団結ガンバローで大会を締めくくりました。

市教組は、定期大会で承認された2024年度運動方針をもとに、子どもたちに豊かな学びを保障し、よりよい教育条件の実現、働き方改革の推進、そして平和で民主的な社会の実現に向けて、引き続き全力で取り組みます。



## = 討論 (要旨) =

武田代議員 (事務職員部)

事務職員部は 11 日に第 64 回定期大会を開催し、1 年間の運動方針が決定した。組織強化・拡大を最重要課題と位置付け、6 月に体験型のレクリエーション行事、新採歓迎集会を開催し、市教組の仲間の輪を広げる運動に取り組む。



戸田代議員 (女性部)

学校の多忙化で、子育てや家事との両立できるか、不安を抱えている教職員は多い。追い打ちをかけるような「子持ち様」という言葉の流行。すべての教職員が健康でいきいきと働き続けられるよう、必要な条件整備を求めていく。



家原代議員 (西部支部・真住中分会)

「戦争のできる国」のために狙われているのが憲法への自衛隊明記と緊急事態条項の新設。今、黙っていることは戦争への道を認めることにつながる。「憲法改悪反対」の声をもっと大きくしなければならぬ。



柳井代議員 (東部支部・南中分会)

忙しい中でも、年に 2 回程度分会会議を開催。組合員の悩みや考えをきくことができ大切さを感じている。それらを踏まえて評議員会や定期大会で質問や意見を言っている。ボトムアップの組合運動を構築しよう。



高嶋代議員 (南部支部・桑津小分会)

5 月 8 日、南部支部が青年層向けの学習会を開催。本校にいる特別専科教諭の方も参加。「学校ごとに職務内容が全然違う」「次の学校でうまくやれるか不安」などの意見が出された。一緒に参加した方は組合に入ってくれました。



竹島代議員 (北部支部・天満夜中分会)

夜間中学校には事務職員がいないので、教員が現金を扱わなければならないこともある。2 年後には 37 都府県に夜間中学が設置される。夜間中の教育条件・労働条件の改善をめざして、日教組に夜間中学校の専門部の設立を。



南崎代議員 (北部支部・東三国中分会)

ICT 教育では、子どもの表情や行動から課題を見つけたり、他の教員と共有することが希薄になるのではないかと。どうい子どもを育てていくのか、もう一度原点に戻って組合としても議論していくべきではないのか。



高野代議員 (北部支部・柏里小分会)

通級学級を担当しているが、進学先の中学校では、高校受験では特別なことはできないとして、小学校でのテストの方法や工夫などが引き継がれていないのが残念。子どもが安心してテストを受けられる配慮があってほしい。



大浦代議員 (栄養教職員部)

今年度は、食物アレルギー対応マニュアルが大きく変更され、ストローレス牛乳パックへの変更も含め、現場は大変混乱している。学校給食を活用した食育のさらなる充実のためにも、栄養教諭の全校配置を求める。

